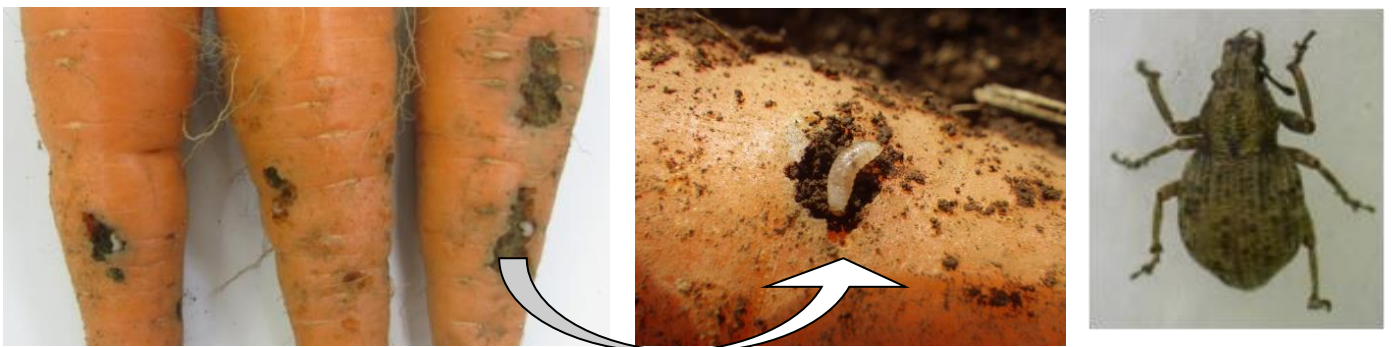


春ニンジンのヒョウタンゾウムシ類に注意！

平成30年4月

山武農業事務所 改良普及課(0475-54-0226)
JA山武都市 営農振興課(0475-82-3531)

近年、春ニンジンにヒョウタンゾウムシ類の被害が増加しています。登録農薬が少なく、ヒョウタンゾウムシ類が増加する時期に初期防除をしっかりと行うことが被害軽減に重要です。ヒョウタンゾウムシの成虫は飛行ができないため、周辺の圃場や草やぶなどから歩き回り、トンネルが除去される4月中旬から圃場に侵入してきます。



幼虫が地下部を食害。幼虫は体長2～10mm。

ヒョウタンゾウムシ成虫
(体長1cmほど)

昨年、写真のような被害が出た畑では早めにコテツフロアブルの散布を行ってください。被害の大きい畑ではスタークル顆粒水溶剤の灌注も行いましょう。

防除時期	4月中旬～4月下旬	4月下旬～5月上旬
薬剤例	コテツフロアブル 2000倍 前日まで 2回以内	スタークル顆粒水溶剤 400倍 0.4ℓ/m ² (灌注) 21日前まで 1回

(薬剤の効果と散布タイミングについて)

「コテツフロアブル」

成虫対象。薬剤に浸透性は無いので、ニンジンの葉・ゾウムシにかからないと効果が出ません。成虫の発生ピーク前に1回目の散布を行い、発生状況に応じて、2回目の散布を行うと効果的です。

「スタークル顆粒水溶剤」

成虫・幼虫対象。発生ピーク頃に灌注することで、成虫が産卵した卵から孵化する幼虫を防除できます。激発圃場では積極的に灌注防除を行いましょう。